

文献紹介

前号（第2巻第2号55-56頁）に掲載された渋澤栄さんからの問題提起に関する

問題提起の最後に「疑問」として挙げられていた項目の中で、イネ科以外の植物（果樹など）にも短いままで伸長を停止してしまうような分枝根が存在するのか、という趣旨の項がありました。山内さんからのコメント（同号57頁）にもあるとおり木本植物でも広く観察されているようですが、コナラ属の根に関する論文で渋澤さんのお考えや手法とも共通点がありそうな実験が報告されていますので、ご参考までに紹介します。出典であるISRRシンポジウムの論文集に関しては下の情報覧を参照して下さい。

Pagès,L., N.Pierre and P.Petit 1992. Growth correlations within the root system of young oak trees. In Kutschera,L., E.Hübl, E.Lichtenegger, H.Persson and M.Sobotik eds., Root Ecology and its Practical Application: Proceedings of the 3rd ISRR-symposium. Verein für Wurzelforschung, Klagenfurt.505-508.

(Pagès,L. INRA Laboratoire d'Agronomie, Domaine St-Paul, F-84143, MONTFAVET CEDEX, France)

著者らは根箱に栽培したヨーロッパナラ (*Quercus robur* L.:コナラ属) の若木について、主根と側根（ここでは、2次根：第1次の分枝根のみ）の生長を観察した。その結果、主根は毎日2cm程度の安定した速度で伸長したのに対し、多くの側根は1日当たり数mmの速度で2-6日のごく短期間のみ伸長し短いままで伸長を停止した。ただし一部の側根は、はじめの数日間に1日当たり数mm～1cmの速度で比較的速く伸長した後、長期間にわたって1日当たり2mm以下の緩やかな伸長を続けた。障害物をおいて主根の伸長を物理的に阻害した場合には、上述のような短いままで伸長を停止した側根もみられた一方で、いったん停止した後に再度伸長し始めた側根や、継続的に大きい速度で伸長を続ける側根が現れた。こうした側根のほとんどは主根の伸長が阻害された後に出根したような若い側根であった。これらの側根の伸長様式がどのように決定されているかは明かでないが、根（主根あるいは側根）どうしの間での物質をめぐる競合を考えているようである。

（東京大学農学部 阿部 淳）

情 報

第3回国際根研究学会シンポジウム (the 3rd ISRR symposium: 1991年、ウィーン) の論文集が発行されています。オーガナイザーのクッチャーラ教授らが作製し参加者を中心に頒布したものですが、まだ数十部の余部があるそうです。入手希望の方は直接クッチャーラ教授宛にお申込下さい。A4版で836頁、ハードカバーのみ。短編の論文（英語、一部ドイツ語）が多数含まれています。

申込方法: Proceedings of the 3rd ISRR-symposium を購入希望であること、希望冊数、送り

先を明記しクッチャーラ教授に連絡して下さい。同時に下記の方法で料金を送って下さい。

宛先: Prof.Lore KUTCHERA, Pflanzensoziologisches Institut, Kempfstrasse 12,

Klagenfurt A-9020, AUSTRIA. (Tel/Fax Austria:0463-54461)

料金: 1冊につき800オーストリア・シリング (8000S, 1万円弱) (ただし郵便為替の場合)

支払方法: なるべく郵便局の国際送金為替をご利用下さい (大きな郵便局で扱っています)。

オーストリア・シリング (OS) 建てであることと、受取人であるクッチャーラ教授の住所・氏名（上記）を窓口で申し出て下さい。やむを得ず銀行為替にする場合は1冊につき8800S (800S増し) をお送り下さい。

郵便局経由で為替がクッチャーラ教授のもとに届いてから船便にて送られてきます。

*在庫が少ないので希望の方はすぐに申し込んで下さい。品切れが心配な方は送金前にご自身で在庫を問い合わせて下さい。根研究会ではこの件につき一切の責任を負いません。